

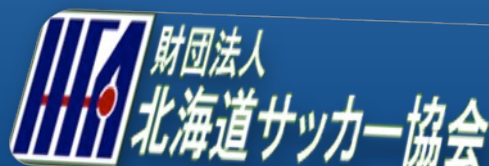
# 2011北海道トレセン U-13 エリートキャンプ兼 8人制交流大会

2012年1月6日～8日

【報告者】 新谷和彦

練習場:札幌サッカーアミューズメントパーク屋内競技場

試合会場:札幌市スポーツ交流施設「つどーむ」



## 冬季の北海道サッカー 育成と強化 ～U-13 エリートの分析から～

### 1. 事業の概要

この事業は、主にU-13の冬季における育成と強化を目的に行っている。1月7・8日に札幌市つどーむにて8人制交流大会が行われ、それに合わせて北海道エリートU-13/U-12、女子トレセンU-15がキャンプを実施して大会に参加している。また、道内各ブロックのU-13が2チームエントリーして大会に参加している。各トレセンチームは大会での勝利を目指すとともに、将来日本を代表する選手になることを目指して個の力を磨くべく、高い志を掲げてプレーに臨んだ。

なお、以下の内容は、U-13エリートに関するものである。

### 2. はじめに

今回の交流大会は北海道トレセンU13が全勝で1位となり、北海道を代表する優秀選手が集まったチームにふさわしい結果で終えることができた。北

海道トレセンU13担当者としては、最高の形で終えることができ良かったと思う。しかし、今キャンプは成果とともに課題も浮き彫りとなり、トレセンの終着駅である国体に向けて、段階的かつ着実に準備しなければならないとスタッフ一同感じたところである。



北海道での一貫指導をブロックトレセンから！！  
日本代表とオリンピック代表を2015年までに輩出する！！  
和歌山国体(2015)までには優勝を！！

### 3. 今大会に向けての準備

今キャンプは、交流大会の参加とさらなる選手強化、さらに選手同士、また選手とスタッフ間のコミュニケーションの深化をねらって行われたものである。交流大会への参加が目的となっていたが、当然のことながら、北海道トレセンの実力から考えると全勝で優勝しなければならないと考えていた。そのための準備として前日のトレーニングを行った。



1月6日のトレーニングのテーマは「守備」とした。ナショナルトレセンから、守備は「ゾーンで守る」ことが要求され、8月末の北海道トレセンでも重点的に行ってきた。

まずはそれを思い出させることと、それを大会で行うことにより、失点を抑えて勝ちきることができると思ったからである。

多くの選手は夏のトレーニングを思い出すことができ、スムーズにトレーニングは進んだが、年末年始の休み明けすぐのトレーニングだったため、コンディションが整えられてない選手がほとんどで、選手にすれば比較的ハードなトレーニングになったと思う。

この日は、ファースト・ディフェンスのアプローチのスピードが遅いということ、守備の予測とその準備としての「観る」というこ



とができていないこと、相手選手の受け渡し、特に縦の受け渡しがあまくできていなかったこと、トランディションが遅いこと、攻撃時に前を向くことの意識が低いことが課題として挙げられた。これらを夜のミーティングで、練習の映像を見ながら確認し、その修正を翌日の試合のテーマとした。

またミーティングでは、今大会全勝で1位となることを目標とすること、北海道を代表する選手としての誇りをもって毎試合戦うこと、そして、常に代表にふさわしい行動をとることを求めた。



### 4. 大会を通して得られた成果と課題

今大会を通して得られた成果と課題を下に簡単に述べる。

#### (1) 成果

- ① 試合を重ねるごとに、相手の背後のスペースを意識した攻撃や、ボールをリズムよく展開すること、効果的なくさびのパスとサイドチェンジを行うことができ、攻撃で主導権をもつことができた。
- ② ファースト・ディフェンスが積極的に奪おうとしたり、制限をかけたりすることができた。



- ③ それを基にして相手の攻撃の予測を立て、次のラインの選手がボールを奪う場面が、試合を重ねるたびに少しずつ増えた。
- ④ 攻守の切り替えがすばやく行うことができた。

**(2)課題**

- ① いつも観る、観ておくということ。
- ② 相手選手のギャップや、相手チームの守備ブロックとブロックの間でタイミングよく受けること。
- ③ センターフォワードを使ってビルドアップしたり、相手の守備を崩したりすること。
- ④ ボールの移動中にアクションを起こし、3番目の選手がボールを受けること。
- ⑤ GKにボールが入った際、サイドの選手(DF)がすばやく開いてGKからボールを受け、前に展開すること。
- ⑥ コーチから指摘されなくても、ボールを奪おうとすばやくアプローチしたり、ボール保持者にすばやく制限をかけたりすること。
- ⑦ ボールサイドに寄りすぎたり、あるいはそこから離れすぎたりせず、状況に応じて中間的ポジションに立って守備をすること。

**2011 第7回北海道トレセンU-13冬季交流大会(8人制)**  
 期日:平成24年1月7日(土)・8日(日)  
 会場:つどいむ(札幌市東区栄町885番地1)

Aグループ

	道南A	道北A	道東A	道央A	札幌A	HFA U-13	HFA U-12
道南A		○3-0	○2-0	○6-1	○4-1	×3-5	○3-0
道北A	×0-3		×0-1	△4-4	○6-4	×0-3	○5-3
道東A	×0-2	○1-0		○6-0	△2-2	×2-3	○2-1
道央A	×1-6	△4-4	×0-6		×2-6	×0-11	○4-2
札幌A	×1-4	×4-6	△2-2	○6-2		×0-4	○5-0
HFA U-13	○5-3	○3-0	○3-2	○11-0	○4-0		○3-1
HFA U-12	×0-3	×3-5	×1-2	×2-4	×0-5	×1-3	

Bグループ

	道東B	道南B	道央B	札幌B	道北B	HFA U-15女子
道東B		○4-3	×0-7	×1-3	○4-2	○4-2
道南B	×3-4		○8-3	△0-0	○10-2	○3-1
道央B	○7-0	×3-8		×2-5	×3-5	○4-3
札幌B	○3-1	△0-0	○5-2		○7-4	○6-1
道北B	×2-4	×2-10	○5-3	×4-7		○6-1
HFA U-15女子	×2-4	×1-3	×3-4	×1-6	×1-6	

**4. おわりに**

上記の課題を克服していくことが、次年度早々に行われるU14トレセンキャンプのテーマとなる。課題は多々あるが、その中からU14年代のうちに特に取り組んでおかなければならないことを検討し、それを重点的にトレーニングしていく。そして、今後はその準備としてそれを克服するためのトレーニングを具体的に考えていく。

キャンプ初日の夜のミーティング前に選手にアンケートをとった。全員がプロのサッカー選手になること、日本代表になることが夢であると書かれていた。北海道の中では現在そこに最も近い選手たちである。しかし、彼らはまだ淡く輝く宝石である。彼らをさらに輝かせ、日本の「宝」とするために、我々コーチはその年代に応じた磨き方で、彼らを磨いていかなければならない。そのためには、国体出場までを見据え、一貫した段階的なトレーニングを積み上げられるよう、Plan(計画)→Do(実施)→Check(評価)→Action(改善)を繰り返し進めていくべきだと思う。



●U-13 エリート選手●  
 コンサドーレ札幌 8名、コンサドーレ旭川 1名  
 札幌 5名、旭川 1名、函館 1名 計 16名